

地域通貨とコミュニティ

別府大学文学部 人間関係学科

秋田 清

I はじめに

ここ1～2年、地域通貨の運動が、全国的な広がりを見せている。大分県においても、湯布院の「yufu」、中津市の「fuku」、別府市の「湯路くゆる」に続いて大野郡3町村（清川村、大野町、朝地町）の「KOA」が9月1日より実験発行を開始した。

地域通貨の運動は、古くは1820年代のロバート・オーエンのニューラナーク州での試みにまで遡ることができる。また現在の運動の思想的な出発点になった、シルビオ・ゲゼルの考えに基づいたものとしては、1920年代ドイツの「ヴェーラ・システム」、1931～1932年オーストリア、ヴェルグルでの「スタンプ券」に端を発する。

日本においても、1973年に、ボランティア労働銀行、1993年には「さわやか福祉財団」などの試みが開始されたが、1995年にNHKが放映した「エンデの遺言」を契機に、2000年以降急速に広がった。現在、全国で300余りの地域で試みられている¹⁾。

筆者の研究室でも、ここ1年しばしば話題になるし、学外でも、質問を受ける。そこで、今回は、

対話形式で、なぜ今「地域通貨」なのか、実際の運動の中でどんなことが問題になるかについて、考えてみることにする²⁾。

幸い、私の研究室は、家主が居てもいなくても、学科外の学生や教員も含めて、勝手に入ってきて、コーヒーを飲んだり議論をしたりしている。家主がいないときの方が議論は白熱しているようで、ちょっとひがみたくなることもある。

学科開設から3年半、やっと4年生ができた。3年生の間で、「秋田ゼミの四天王」などという言葉が生まれた。本人たちに聞くと、自分を除いた3人は直ちに名前が出てくるが、自分が入っていないと、いかにも迷惑顔で言い張るのも面白い。皆「口が悪い」と言われている。本人たちは言いたいことを言ってるだけなのだが、家主に似たのかもしれない。ただ、対話形式で書く材料には事欠かない。

II 「地域通貨」の矛盾

いつものように、客分格のA君が研究室に入ってきた。本人は、「広く浅く、ですよ」と言うが、その読書量と、高校時代に「賭けディベート」に凝っていたというだけあって、問題点を見つける能力は、群を抜いている。夕方、疲れてくると、



- 1) この間の事情および地域通貨の一般的解説については、大分県商工連合会・大分県商工会女性部連合会『エコマネー検討委員会報告』2003年3月参照（筆者担当分をWWWサイトに掲載）。
- 2) 登場人物のモデルはいるが、架空の人物である。ただし、対話の内容は、実際になされたものに近い。



よくコーヒーを飲みにやって来ては、私やゼミの学生たちに質問を浴びせかける。今日もコーヒーを一口飲むと早速切り出した。

A男：先生、先週「リエターさんの講演会」にも行ったのですが、そこで、中津の「fuku」との両替が話題になって、主催者は「ユーロ」も第二段階にはいったとか言って喜んでいましたが、地域間で、地域通貨の両替なんかして何か意味があるんですか。観光客が中津でもらった「fuku」を別府でも使えたら便利だとは言えますが。

X先生：たとえば、私の母親は、佐世保の老人ホームで寝たきりなんだけど、私が別府でお年寄りの世話をして手に入れた地域通貨で、佐世保の人に母の世話を頼めたら便利ですね。佐世保まで行くのは一日仕事で、交通費だけでも12,000円くらいかかります。2週間に1回行くのがやっとですから。間に誰か行ってくれと、息子の代わりにできるわけではないにしても、毎週母は誰かと話をすることができるわけです。

A男：なるほど、それは一理ありますね。でも、私が言いたいことは地域通貨というのは、もともと地域のコミュニティの再生を目指したものでしょう。それを外部とのつながりができたから発展だなんていうのは問題のすり替えではないかということです。外部との関係が不可欠になっているほど「ユーロ」は内部で展開しているんですか。逆に言えば、大体「地域通貨」なんてのは形容矛盾でしょう。

X先生：おっ、いきなりそこまで跳ぶか！

A男：だって、「地域」というのは個別적인もので、通貨というのは普遍的であろうとする衝動をはらんでますよね。それを二つくっつけることに無理があるでしょう。先生いつも言ってるじゃないですか。「普遍性などというのは近代の貨幣の

普遍性に惑わされたものだ」って。

X先生：たしかに。でも、それは、地域的・個人的なものとはつまらないものという考え方に対する反省として言っているのです。貨幣を度外視しても、人間の根源的な欲求として普遍的なものに対する憧れというのはあるんじゃないかな。だからこそ貨幣が生み出されたとも言える。

A男：「人間の根源的な欲求」、今度は生命論ですか？　なんか3段跳びみたいになってきましたね。

X先生：じゃあ、元に戻ろう。君が言いたいのは、地域通貨の運動の中で、空間的、量的な拡大をすぐに発展だと考えるのは変だ、ということだね。

A男：そうです。それでは、近代の貨幣経済の二の舞でしょう。お金さえ持っていればなんでも手に入る。だから、ひたすらお金を稼ぐ。どんな方法で稼ぐかには無頓着になる。お金を求めて、人は世界中を駆け巡る。そうじゃなくて、何を作るか、どんなサービスをするか、どんな人とどんな付き合い方をするか。要するにそれぞれの地域の自然環境、気候風土の中での生活を再構築しようとすることに地域通貨の運動の意味があるんじゃないですか。量的な拡大の前に、質と言うか、生活の内容、交換されている内容が問題でしょう。

X先生：そのとおりですね。ただ、一人ひとりの生活は個別的なものです。それは孤立して行われているわけではなく、他の人との関係の中で行われていますし、生活の中での一人ひとりの欲求は、絶えず変化し、拡大していきますね。もっとうまいものを食べたいとか、珍しいものを見たいとか、自分のやっていることをもっと多くの人に認められたいとか。ただ、個人としてはともかく、全体としては散々そうして普遍的なものを求めてきたけど、それもたいしたことはない、そんな気分がありますね。旅行して帰ってきて、「やっぱり家が一番」なんていうのと似てます。

途中から4年生ゼミの世話役のC君が入ってきていた。学科内のサークルを拠点に、学外での青少年の活動の支援や小学生のフリースクールなど、幅広く活躍している。活躍しすぎて、単位不足で、4年生になってあわてている。

C男：地域通貨の話ですか。ちょっと聞いていいですか。この前「浴衣でピンポン」のときに「湯

冷め期限（有効期限）1日」という「ユーロ（湯路）」が発行されてましたね。ピンポン大会の参加費が1チーム4,000円。それに対して当日だけ有効な2,000ユーロが渡され、1ユーロ＝1円で、加盟店で買い物ができる。加盟店は、事務局で円と交換できる。アイスクリームやコーヒーなど結構使われたようですが、あれ地域通貨ですか。単なる金券だという気もしますが、それより問題なのは、「地域通貨」の名をかたった詐欺のような気もします。

X先生：詐欺か。それは大変だ。

C男：だって、事務局が最終的に受け取ったのは2,000円ですよ。それで運営できたのなら最初から参加費として2,000円取ればよかったわけで、2,000円分強制的にアイスクリームなどを買わされたことになりませんか。

X先生：なるほどそういう見方もできるね。でも、ただ取られたのではなく、ちゃんと等価のものを手に入れているし、1チーム4人で、ひとり当たり500円。1日やってれば、昼ごはんも食べるしジュースも飲む。どうせ、500円以上は使うんだから。それに大会の運営にあたった人は、ボランティアで無料奉仕なんだし、その人たちに賃金を払ったら、それくらいは十分掛かる。そう考えると2,000ユーロは、運営に当たった人の労働に根拠があるとも言える。

C男：話はわかりますが、なんか釈然としませんか。

X先生：でも、文句が出たという話は聞かないけど。C君が言う「釈然としない」部分は、おそらく「遊び心」が補っているんでしょうね。

C男：また「遊び心」ですか。先生にとっては、研究も教育も、人生も遊びなんでしょうからいいでしょうけど。

X先生：まあね。でも、ちょっと大仰に言うと、遊び心は「時代の精神」かもしれないね。テレビで「恋のからさわぎ」という番組があるけど、一億総からさわぎ。誰も投げどころになるものを持たない。各地でやるお祭りや各種のイベント、何も確かなものが自分にないから、人が大勢集まっているとつかの間の安心感がある。村や町が沈滞しているから、観光名所や名物を作って「交流人口」を増やそうとする。全国総観光地化。なんかうかかっているだけのようにも思えるけど。



A男：「遊び心」と「からさわぎ」はちょっと違うような気もするんですけど。

X先生：どんなふうによ？

A男：「遊び心」の方が自覚的と言うか、積極的と言うか。「からさわぎ」は外から見て否定的に捉えているような。

X先生：自覚的な「からさわぎ」もあるかもしれないけど。『時代の精神』としての「遊び心」は、確かなものがあるような顔をしない。ないことを自覚した上で、それを求め、創り出そうとしている。うまくいかないと「へっ」と笑っている。生真面目な問いかけがあると、「いやあ、遊びですよ、遊び。面白けりゃいいんですよ」と答えながら、まじめに遊んでいるような。

A男：遊びつかれて、日が暮れて。

X先生：そうなる前に、確かなものが見つかるといいけど。

C男：確かなものって何ですか。

X先生：生活のあり方、生活心情、生活のリズム、生きがい、人と自然、人と人とのかかわり方、まあ、言葉ではいろいろ言えるけど。

C男：そんなもの永久に見つからないように思いますけど。まあ、また、ごまかされたような気がするけど、次の講義が始まりますから。



エコマネー

C君と入れ替わりに、Bさんが入ってきた。卒業論文で、地域通貨を取り上げることにしているが、なかなか進まないようだ。彼女はいつも、中に誰がいて、どんな話をしているかにお構いなしにしゃべりだす。

B子：また、二人で難しい話をしてるんでしょう。先生、「エコマネー」ってつまらん。おとなしく、

ボランティアしてればいいじゃん。何でお金のやり取りするの。

A男：いきなり言わないで、ちょっと説明してよ。

B子：エコマネーって、「思いやりの心を形にしたもの」とか言う人もいるけど、あれ変ですよ。思いやりの心を形にしたのは、車椅子押してあげるとか、荷物を運んであげるとか、実際にサービスをすることでしょう。感謝の気持ちを形にしたものと言うほうが正確ですよ。感謝の気持ちだったら、「ありがとう」って言えばすむことじゃん。そしたら、プラスになったとか、マイナスになったとか、つまらんこと言わないですむし。

A男：「思いやりや感謝の気持ち」と言う表現ありませんでしたか？

X先生：「思いやりに対する感謝の気持ち」というのはあったかもしれませんが。えっ！ なに、「思いやりと感謝の気持ち」、「や」じゃなくて、「と」が正確だと言いたいのか？

A男：ええ、まあ。

B子：またあ。すぐ私にわからん話を始める。ちゃんと説明してよ。

X先生：わかった、わかった。Bさんが解るようには難しいけど。Bさんが言うように、「ありがとう」の代わりに渡しますね。代わりじゃなくて、「ありがとう」と言いながら渡しても良いんだけど。

B子：余計なこと言わんでいいから。

X先生：そのときサービスを提供した人が受け取るのは、紙切れやコイン状のものや、単にカードに書かれた数字でしかないわけですね。そんなもの受け取って何かうれしい？

B子：それだけだったら、うれしくない。車椅子押して、ネックレスもらったらうれしいけど。

A男：だけど、紙切れは単なる紙切れじゃない。

B子：それで、ほかの人に何かしてもらえる。そうか。でも、それって当たり前じゃん。

X先生：当たりのことに気づかなかったくせに。だから、思いやりの心があって、誰かに何かをしてあげる、サービスをしてもらった人は感謝の気持ちをエコマネーで支払うことによって表す。エコマネーを受け取った人は、それで、他人の思いやりを受けることができる。思いやりと感謝に基づく行為の連鎖ができる。その連鎖、人と人との関係、ネットワークがエコマネーには体化

されているということになる。

B子：でもやっぱり、エコマネーなんかなくたってそんなことはできるじゃないですか？

X先生：できます。たとえば社会福祉協議会などにはボランティア希望者のリストがあって、たくさんの方が登録しています。でも、それは余り機能してはいません。機能しても、そこにあるのは、一方向だけの単発のボランティアの寄せ集めです。エコマネーはそれに連関をつける。この点についていえば、エコマネーや一般に地域通貨などが無形のネットワークを目に見える形で表していることは結構大事なことのかもしれない。

A男：神や仏が、教会とキリスト像、お寺と仏像の形を取ると信仰の中心になるようなものですかね。

X先生：まさにそうですね。それにエコマネーや地域通貨が持っている「遊び心」、これもさっき言ったけど、意外に大事なこともかもしれない。

A男：「遊び心」が体化している！「遊び心」の神様？

IV エコマネーの循環

B子：抽象的な話はなんとなくわかったけど、ボランティアのネットワークがエコマネーでうまくつながっていくの。お年寄りや障害者がサービスを受けて、エコマネーを支払ったら、すぐになくなってしまうじゃん。

A男：それは私も気になっていましたが、うまくいくんですか？ エコマネーって、昔の「結」や「手間がえ」のようなものっていうけど、あれは、田植えとか茅葺屋根の葺き替えだとか同じ作業を順番にやるという話でしょう。あるいは共同作業。

X先生：うまくいかない。Bさんが言うように、お年寄りがサービスを受けることはあっても、してあげられることは限られています。藁ぞうりや竹馬の作り方を教えるとか、昔話を聞かせてあげるとか、話としてはわかるし、そういうことでお年寄りの社会参加を促すことは大事だけど、通貨が自立的に循環するということまではいかない。

A男：どこかわざとらしいですね。

X先生：アメリカでは、老人ホームのお年寄りが他人のためにお祈りをしてあげるなんて話もありますが、日本ではね。

A男：「皆様方のご健康とご多幸をお祈りします」なんていうけど、誰もお祈りなんかしていない。

B子：じゃあ、実際にやってるところはどうしてるんですか。栗山町の「クリン」の場合は1年ごとに「リセット」するという形で解決しているみたいだけど、他にも手があるんですか？

X先生：たくさん貯めた人が施設やお年寄りに寄付をするというのがあります。他には、千葉の「ピーナッツ」のように、プラスマイナスを気にしないという手があります。極めつけは、サービスを受ける人がいるからボランティアができる。サービスを受けることにも価値がある、という話もあります。

A男：何ですかそれは。そんなことが言えるんだったら、消費する人がいるから生産ができる、消費することにも価値があるともいえるわけですね。変なこと思い出しましたが、「お客様は神様」、私を生かしてくれる！？

X先生：まあ、そうです。以前、ボランティアをしている人が、「手助けをしているのは確かに私だけど、この活動で私は生きる意味を見出した。ほんとに助けられたのは自分の方かもしれない」と言う発言をしたことがありますね。あの発言はとても貴重だと思うんですけど、それと通貨を媒介にした交換における価値とは一応別問題ですよ。ね。「ほんとに助けられているのは自分のほうだ」という世界では交換なんか存在しない。「お客様が神様」というのは、あれ客がお金持ってくるから神様なんですからね。

B子：ふざけてないで、議論は私に合わせてよ。私は卒論書かんといのかんのよ。卒業懸ってるんだから。

X先生：ハイハイ。審査するのは私だけだね。

B子：指導するのめでしょう。だからね、リセットとか言ってご破算にするんやったら、最初からお金のやり取りなんかしなければいいじゃん。

A男：どうせ死ぬんだから、生きてても意味ないじゃん。

X先生：この世はつかの間の夢。せいぜい楽しもう。

B子：もうっ。

X先生：だからね。過程に意味がある。栗山町の場合、最初に3,000クリンをメンバーが持っている。それでサービスの交換をする。貯まる人もな

くなる人もできる。そのままでは続けられないから1年間たったらリセットして、また3,000クリンを全員が持つてはじめる。そのとき、たくさん貯めた人ではなく、たくさん交換した人を表彰する。貯まるという結果にではなく、サービスのやり取り、つまり過程に意味がある。

B子：わかるけど、なんかごまかされたような気がする。

X先生：そう、お金にとり憑かれたBさんにとっては大変だよ。心配しないで、多かれ少なかれ皆そうなんだから。

B子：心配なんかしてない！ お金は要るもん。

X先生：「わかるけど、ごまかされたような気になる」んですよ。それはこんなからくりになっているからかな。あなたが言うように、おとなしくボランティアでやってれば良いんだけど、金勘定（感情）の世界に慣れ親しんでいるわれわれは、サービスをして「ありがとう」とお礼を言われただけでもうれしいけど、何かもらえともっとうれしい。それは自分のしたことが社会的に認められたことでもあるし、他の人が自分に何かをしてくれることを期待できることでもある。お金のためにやったんじゃないかって怒る人もいるけど、それも含めて、さっき話していた「人と人との関係が体化している」貨幣は、個人の側から見ると、「これさえ持っていれば」というものとして映る。

A男：地獄の沙汰も金次第。

B子：要するに、お金でつって、ボランティア行為をさせる。

X先生：まあ、それは表現が穏やかじゃないけど、地域通貨と一般の貨幣との違いを意識した上で言うんだったら、そういっても良い。そうしておいて、1年たったら、ご破算ですという。命がけの飛躍です。この「飛躍」をとおして、共同意識を作っていく。でも、これが、サービスだけだとまだ収まりがつくけど、物の交換も介在したら、損得勘定（感情）はもっと強く働きます。1年間「もの」のやり取りしておいて、ご破算ですって言われたら、簡単には従えない。この点で、「エコマネー」がサービスだけに限定しているのは、ひとつの知恵ですね。

B子：どういうこと？ もうちょっと説明してよ。

X先生：サービスだけだったら、思いやりの心ですみます。まあ、自分で作った「もの」だったらまだ我慢ができる。でも、お金が絡むとそうはいきません。昔、小学校の育成会で父母や子供たちが集まって、廃品回収をして資金作りをしていました。父母10人くらいが半日掛かりで収益は2,000円。半日ばかりでこんなことするんだったら、一人200円出した方がいいんじゃないと言ったら、即座に、「集まりませんよ」と言われました。

普通の人にとって、ボランティアと言うのは、あくまでも自分の生活はちゃんと確保した上でです。サービス（労働の提供）だけに限定したエコマネーは、国民通貨や世界市場ときりはなして、ネットワークを作っていくものですから、比較的容易にできます。そこで培われた感覚・人間関係を基礎にして、そのネットワークに組み込みやすいものから組み込んでいくというのは、ひとつの知恵です。

B子：さっき、エコマネーはつまらん、と言ったけど、言いたかったことが少しはっきりしてきた。

X先生：これくらいは、自分ではっきりさせないとね。

B子：授業料払っているんだから、いいじゃん。

X先生：おやおや。自分で解決する能力をつける指導をすることで給料もらっているつもりなんだけどな。

B子：要するにエコマネーは広がりがない。自治体とか政府がやるべきことをただで肩代わりしているだけじゃん。生活全体とは関係ない。

A男：そういえば、柄谷行人でしたか、エコマネーは現在の資本主義体制を擁護するためのものだ、とか言っていましたね。

X先生：正当な労働は正当な報酬を受けるべき、という批判もありますね。たしかに、Bさんや柄谷さんが言っていることは、的外れではありません。見方によってはそうもいえます。でも、それがどういう方向を向いているかを見ないといけないし、たとえ現在のままとどまったにしても、福祉や環境に関するボランティアの組織化と言う意味では一定の役割を果たしているんだから、そこはちゃんと評価すべきじゃないかな。

いつの間にか、Dさんが入ってきて、コーヒーを

入れ替えてくれていた。

D子：相変わらず、がんばっちゃるね。コーヒーでも飲みなさい。

それにしても先生、今日はえらい理解ある発言やね。いつもすぐに、馬鹿だの、下らんだの言うくせに。やっぱ、還暦迎えると違うんかね。今度からゼミのときには、いつも赤いちゃんちゃんこ着てきてよ。

V サービスの交換と物の交換

A男：ところで、さっきの続きですけど、この前「日本経済新聞」で加藤さんが、「エコマネー」と「エコポイント」のリンクというのを提案していましたが、やっぱり、エコマネーだけではうまくいかない？ それに先生の話だと、富山大学の公開講座で、加藤さんは「私は、地域通貨とかエコマネーとかにこだわっていない」と言っていたんですけど、あれ、エコマネーの破産宣言ですかね。

X先生：「破産宣言」は言いすぎでしょう。彼は以前から、NPO組織やコミュニティ・ビジネスとの連携について語っていましたから。それが少し具体化したというべきでしょう。

B子：どういうこと。私が言いたかったことと関係ある気がするけど。「エコポイント」ってなに。

A男：「ボランティア活動と商店街やコンビニなどで発行されるスタンプや共通商品券をリンクしたもの」と言っています。

B子：そしたら、サービスだけではなく「もの」も含まれる。

X先生：そう。ただ、売られている商品を100%地域通貨で買えるようにするとすぐに行き詰ります。商店は商品を法定通貨で仕入れています。そ



れは世界市場とつながっています。地域に限定された通用力しかない通貨で売ったら、支払いができません。だから割引に限定する。

B子：それ不公平じゃない？ だって、例えば、大野郡の地域通貨、なんでした？

X先生：「KOA」

B子：1,000コアは1時間の労働相当でしょう。それで例えば5%引きで1,000円のものを買うと、50円割り引いてくれる。ところが、お店の人がその1,000コアで、荷物を運んでもらうとか、倉庫の掃除をしてもらうとかすると、50円で人を1時間も働かせることができる。1コアはほぼ1円と想定されているようだから、1,000円⇒50円⇒1,000円ということになる。

X先生：そういうことはわかるんだ。

B子：馬鹿にしないでよ。これでも、バイトしたり、家で、買い物したり、晩御飯作ったりしているんだから。

A男：でも、10万円のものを買ったら？

B子：10万円の5%で、5,000円。1時間の労働で5,000円割り引いてもらえることになる。じゃあ、100円のものを買ったら、5円しかまけてもらえない。そんなんばかばかしい。

X先生：そう、生活の全体は、世界市場と国民通貨とのつながりの中で行われている。そこに違った関係を持ち込もうとしているんだから、どこかに無理が出る。地域通貨でモノの売り買いまで、労働を基礎に、「等価」でしようとする、リサイクル品とか、農産物の一部とか、地域で作られる堆肥とかに限られる。広げようとする、Bさんがいったような問題はあるけど、割引制度を入れるしかない。しかもA君が言ったようなことも考慮すると、例えば1,000コアの場合は1,000円を超えない範囲でという条件をつけざるを得ない。逆に5円しかまけてもらえない時は使わなければいい。ただ、商店が地域通貨で頼める仕事の範囲が広がれば、割引率を上げて「等価交換」に近づけていくことは論理的には可能ですけどね³⁾。この点については、「価値」とか「価格」について

の説明が必要だけど、またにしよう。

A男：そうすると、リエターさんみたいに、「補完通貨」という位置づけを明確に与えるというのが賢明ですかね。それとも、世界中の地域通貨が連携すれば、すべて問題は片付くなんていう話もあるようですけど。

X先生：地域通貨による世界支配!? いいですね。論理的には可能ですよね。世界政府を作って、利子と利潤を禁止する。

B子：うーん、だいぶ解ってきた。卒論の準備で世界の地域通貨の歴史を調べていたんだけど、エコマネーと言うのは、ぜんぜん違う。なんか日本的。

X先生：そう、最近はずしもそうではないけど、もともと「不況対策」として生まれてきていますからね。

A男：その点で、ちょっと気になっているんですが、さっき言った「日経」の加藤さんの論文ですけど、同じ不況対策なんですけど、彼はエコマネーやエコポイントを世界的な規模でのデフレ・不況対策として論じている。単なる大言壮語なのか、エコマネーやエコポイントは世界経済をうまくやっていくための手段なのか、どうもはっきりしませんね。あんな言い方されると、柄谷さんみたいに、「資本主義経済を維持するための」とか言いたくありませんね。

X先生：相変わらず厳しいね。でも、実際には難しいけど、うまくいけばの話だけど、でたらめではない。まあ、それよりも、実際に取り組んでいる人たちが自分たちがやっていることの意義を世界経済の展開の中で捉え返すという意味はある。

D子：突然ですが。やっぱ今日の先生おかしいよ。どうしたん。身体どこか悪いんじゃない。そんな物分りの良いおっさん面白くない。

A男：そうですね。捉え返し方にもいろいろあるうってもんです。エンデが言ってるように、株式投機に使われているお金と地域通貨は違う、同じ「市場」でもその組織原理が違うということを曖昧にすると、存在意義がなくなっちゃうでしょ

3) 「KOA」の場合は、さしあたり次のような基準で流通実験をすることにしている。500円を超える商品の場合は、1,000コアは50円、500コアは25円引き、500円以下の商品の場合は商品価格の5%の割引券として使用する。商店は手元にある「KOA」を値引きの代わりに、同じ基準で渡すことで「割引引き」をすることができる。「率」については、お互いの話し合いで、その都度これを基準に変更してもかまわない。

う。世界市場と無関係には存在できないというのはわかりますが、問題をどういう位置から、どんな観点で見てるかと言うのはやはり大事でしょう。ひょっとしたら、加藤さんのは正論かもしれませんが、正論で人は動きませんよ。先生はよく、地域通貨の「運動」と言う言葉を使われますが、それはそういう意味でしょう。

B子：えっ？ どういう意味。

X先生：一般論として言うのですね。地域通貨の運動も、個人の考えも、人間なんて所詮部分的で一面的なんです。それを忘れちゃいかん。どこかに正解があるとおもって、自分の考えはその正解だと勘違いして主張する。自分の考えを主張するのはいいですよ。でも、正解なんてどこにもない。妥協の産物としてさしあたりのものが存在するだけ。その妥協を生み出す過程が運動。妥協の結果を予想して、ほら俺の言ったとおりになった、と言って自慢する馬鹿がいるでしょう。遠視で近くが見えてないから、「現在」にかかわれないだけ。その結果を誰があるいは何が作り出したのか解ってない。そういうやつは、すぐ、木に竹接いだような「結論」を出して得意になっている。

D子：おっ、いつもの先生にちょっと戻ったね。安心した。

A男：だから、地域通貨の運動を担っている人は、それ独自の市場圏や構成原理にこだわり続けるべきだと思うんですよ。外部との関係は、それが実際に問題を起こしたときに対応策を考えればよい。

C男：そしてつぶされたりしてね。

講義に出ていたC君が、E君とともに戻ってきていた。

VI 地域通貨と生産物の交換

X先生：実際につぶされたものも多い。Bさん、ヴェルグルのスタンプ券について簡単に報告して。

B子：1931年から32年にかけてオーストリアのヴェルグルという小さな町での話です。当時、人口4,500人のうち500人が失業中で、1,000人がすぐにも失業するという状況でした。

市長は、シルビオ・ゲゼルの理論を試してみることになりました。4万シリングを銀行に預け、そ

れを担保に、ヴェルグルだけで使用できるスタンプ券4万シリング相当額を発行し、道路の補修、水道システムの整備、道路沿いの植樹などの事業の支払いに使いました。

このスタンプ券は、毎月額面の1パーセントの証紙を張らなければならなかったもので、それを受け取った人は早く使おうとしました。そのため、スタンプ券は、法定通貨と比べて12~14倍の雇用を生み出しました。

しかし、中央銀行は、通貨発行の独占権を行使しました。人々は中央銀行を告訴しましたが、敗訴し、ヴェルグルはまた、30パーセントの失業者を抱える町になってしまいました。

X先生：それで？

B子：わたしは、こういうのは面白いと思うんですよ。利子がないどころかマイナスの利子がつく。物が古くなると腐って朽ち果てるように、通貨も減価しなければならない、というのは変な理屈だと思うんですけど。私たちが持つてる、資本主義経済での常識とまったく違う。それで生産物の交換までやっている。

C男：それはつぶされますね。

X先生：でも、今はどうかな。日銀でも、財務省、総務省でも地域通貨について検討しているそうだけど、うまく包摂して利用する手を考えているのかもしれないね。

C男：どうやって、税金とるかを考えていたりして。

VII 貨幣と人々のネットワーク

X先生：ところで、E君何かありませんか。

E男：いや、話は出たのかもしれませんが、そういった違う関係の下では、人々に違った行動原理みたいなものが必要になってくるんですよね。そんなにうまく変われますかね。

X先生：変わらない。「はじめに行きありき」です。意識は後からついてきます。何世代か後にね。たしかに、18世紀の啓蒙思想が問題にしたように、人間には、利己心とともに利他心もあります。でもそれは「とともに」あるのであって、利他心だけでは独立した有機体としては存続できないでしょう。類や種の存続も個の存続に依拠し、それを通してしか実現できない。

E男：ずいぶんはっきり言うんですね。たしかに私も、「思いやりの心」、「思いやりの心」と言われると、なんか胡散臭いと思いますけど。

A男：そういうこととの関連で言うと、「結い」や「手間がえ」は「思いやりの心」とは全く別ですよ。あれは、美しくもなんともない。金勘定の世界から見ればそうも見えるというだけで。個人はそこから逃れられない、逃れることができるのであれば、それは「村八分」ですよ。

X先生：近代の商品・貨幣経済、金勘定の世界は、そうした世界から人間を解放し自由な個人を生み出した。法的には、移動の自由、職業選択の自由、契約の主体としての個人を認めた。そうして出来上がった金勘定の世界は、金さえ持っていればなんでもできる、金がすべての世界であったけど、すべてのことは金でけりがつく世界でもあったわけですよ。

E男：先生やW先生がよく言う「金勘定のすがすがしさ」ですか。

X先生：そうです。金勘定は、古い共同体のさまざまなしがらみから人々を解放したと、一応は言える。あなたから物を受け取った、サービスを受けた、でもその等価を支払った、だからトントン、ケリはついた、ととりあえず言える。でもこの関係で、どっちが強いと思います。

A男：それは、お金支払う側が強いですよ。だから「お客様は神様」。

X先生：そう、「だから神様」なんです。ほんとは、神様はお客様ではなく、お金そのものです。お客様は、その神様の使いにすぎない。しかも、この神様、たちの悪いことに自己増殖する。

E男：えっ？

X先生：利子を生むでしょう。一定額のお金借りると、同じ額返してもけりはずかしくない。一定期間借りると一定の率で利子をつけて返済して初めてけりがつく。どうして？ 利子の根拠は何？

C男：経済学の講義で利子の根拠は利潤だと習いました。

X先生：そう、生産活動が資本主義的に行われるところでは、一定額の貨幣は一定期間後には、一定額の利潤を伴って回収されるという関係が一般化します。お盆の上にお金置いて、じっと眺めていても増えたりしないけどね。お金を持っていたら、人はそれを使って儲けようとする。お金は一

定期間後には増加するのが当たり前という観念が生まれる。そういう意味で、利子の根拠は利潤です。しかも、株式会社形態が一般化し、資本の所有者つまり株主と経営者とが分離するようになると、配当は利子と観念されるようになる。お金がお金を生むという観念が一般化し、お金がすべての世界が完成する。投機はその最たるものです。そうして、人々の生活の再生産が金儲けの手段になる。

一般に地域通貨の運動は、さしあたり、利子や投機を排除し、貨幣を生活の再生産の手段として置こうとするものだといえます。「さしあたり」というのは、利潤をどうするかについては棚上げにされているからです。

E男：でも、高利貸しは資本主義以前にもありますよね。

X先生：そうですね。説明はいろいろありますけどね。例えば、お金を持っているとそれでいろいろ買って、欲求を満たすことができる。人に貸すと返してもらうまでそれができない。その期間の我慢賃だとか。

E男：うーん。なるほどどうまいこと言いますね。でも、お金を貸せるためには、貯めていなければなりませんよね。なぜ、貯めるんですかね。

C男：保険でしょう。

X先生：保険か。それこそどうまいこと言うね。いわゆる保険とは違うでしょうけど。

A男：不慮の事態への備え、欠乏への恐れ。あるいは逆に豊かさへの渴望。もっと言えば、生への執着。これは貨幣が生まれる前からある。

X先生：そうすると、そうしたことが別の形で保障されると、蓄積欲なんかなくなる？

E男：人々のネットワークで支えられると、ですか？ なんか話はできすぎてますね。

X先生：抜け落ちてくる問題が多すぎますね。人間の欲求でもっと複雑ですからね。地域通貨の運動って、もっと単純に生きようということなのかもしれませんけどね。

そろそろみんなバイトの時間じゃない？ つづきはまたにしよう。